

# TOP MUSEUM



東京都写真美術館ニュース eyes 99

嶋田 忠 野生の瞬間  
華麗なる鳥の世界

TOPコレクション イメージを読む  
写真の時間

# 写真展は唯一のライブ。次へのエネルギーを吸収し、 出会いを楽しみたい —— 嶋田 忠



《カワセミ》1971-79年 作家蔵

野鳥の魅力が鮮やかに凝縮された作品の数々。世界で高い評価を受ける自然写真家嶋田忠氏に、長年貫かれた情熱とテクニックについてお話をうかがいました。

**Q** 嶋田さんの作品は命の輝きを感じさせ、見る人に鮮烈な印象を残します。イメージはどう生まれ、形になっているのでしょうか。

**〈嶋田〉** 最初に出会った時のイメージを大切にしますね。長野県の千曲川で見かけたカワセミ、群馬県の山で巡り合ったアカショウビン、北海道の森で見つけたシマフクロウ。震えたり、引き込まれたりした時の第一印象がイメージになります。

作品作りはずっと「色」を重視してきました。カワセミなら、すがすがしいコパルトブルーとエメラルドグリーン。アカショウビンは、燃えるような、血のような赤。シマフクロウは、澄んだ黄色い目と、底知れぬ闇の黒。

イメージができると自分でも絵コンテを描いてみます。幼い頃は手塚治虫さんや白土三平さんの作品を読み、自分でも描いた漫画少年でした。理想的な姿を自由に描きます。

構図の大切さは、写真ではなく日本画から教わりました。20歳の時にカワセミに出会って2、3か月たって、東京で宮本武蔵の水墨画を見て感動しました。モズが描かれていました。初めて撮ったのはモズなので、知っている人間から見ると、殺気をはらんだ眼差しや凄みが出ていて驚きました。武蔵に凝って、襖絵や屏風絵を見るようになりました。横山大観ら大家の花鳥画からも、構図やバランスの大切さを教わりました。

**Q** もともと絵画と写真は互いを意識し、重なり合う部分も多くあります。「写真とはこういうものだ」という観念に縛られず、自由なイメージを表現したいという欲求が、嶋田さんを突き動かしているように見えます。

**〈嶋田〉** 30代の頃から、フィルムカメラの限界を感じていました。アカショウビンの血のような赤や、シマフクロウの闇の黒が思うように出せない。フィルムやカメ

ラの特長、現像液の状態で色が変わるし、印刷にも限界があります。赤を黒く感じる時もあるし、時間がたてば変わることもあるのですが。ただ10年くらい前からデジタルカメラが使えるものになってきて、今まで出せなかった色が、絵筆のように出せるなど感じました。カメラが絵筆に、コンピューターがアトリエになります。

目をつぶると、頭の中がカワセミのイメージで埋まることがあります。伊藤若冲に、ニワトリで埋め尽くされた絵画がありますが、あんな作品に挑戦したい。若冲は頭の中で写真を撮っています。脳に浮かんだイメージの作品化は、写真でできるようになりました。しかも、ベースは写真に限らず、墨や油彩でもいい。それを撮り、他の分野のプロとデジタル加工していくとか。表現はなんでもあり。写真でも絵でもない作品もあります。

**Q** 写真にとどまらない幅広い分野の芸術家との出会いで、引き出しを増やしてこられました。

**〈嶋田〉** 創刊に携わった動物雑誌『アニマ』の企画で上村松篁さんにお会いし、日本画的な構図や雰囲気や大事にする世界を知りました。カワセミの写真集の受賞パーティーで岡本太郎さんとお会いして、その後の写真展にも来てくれました。岡本太郎さんの行動を観察していて、躁と鬱をコントロールしているんだろうと分かりました。それで自分もやってみようと思って、春にアカショウビンを撮る時、わざと躁になって集中しました。もう闘争的に。そうするとこれま



《アカショウビン》1981-87年 東京都写真美術館蔵



《シマエナガ》2010-17年 作家蔵

でと別のものが見え、納得できていたものに納得できなくなりました。夏には疲れ果てて、10月くらいから日本画的な「静」の世界を撮る、という風ですね。

40歳ごろからはテレビの仕事で、海外で映像を撮っていました。それぞれの分野のプロが加わってこそ、良いものができるんだと。海外の映像や本でしか見られないような生き物に次々出会える喜びもあり、子供の頃に返った感じがありました。常に感動していただける面白さですね。

最近は冒険しているだろうか、とふと考えます。過去の経験値の積み重ねで、負ける相手と試合をしなくなった。無駄があるから有効なものが見えるのに。事前調査をほとんどせず一か八かで飛び込んで成功すると感動も大きい。感動しなくなったらおしまいです。感動の度合いは、未知の領域かどうかによりますから。

**Q** 7月から展覧会が始まります。

**〈嶋田〉** 写真展は、写真家ができる唯一のライブです。会場の人の流れを考え、どこにポイントを置くか。引き込む写真を何にするか。自分で考え、生の反応を見られる。見る人は何を求めているのか。ふだん絵画を見に行くようなお客さんもいるだろうし、写真への興味といっても幅広いし、デジタル世代の申し



《キンミノフウチョウ》2000-18年 作家蔵

【表紙図版】《オオルリ》1980-2017年 作家蔵 ※表紙は部分

子のような若い人たちも来るでしょう。

僕の20歳の頃から、つい数か月前までの百数十点が並ぶわけです。過去との決別でもある。気付かなかったもの、至らないものも見えてくる。それをやり直すのも面白い。次へのエネルギーをこの2か月間で吸い取ろうと思っています。年号も「令和」に変わり、「満1歳になった」という気持ちです。会期中はイベントも盛りだくさん、会場で多くの皆さんとお会いするのを楽しみにしています。 (文 松本浩司)

《オジロオナガフウチョウ》2000-18年 作家蔵



PROFILE  
嶋田 忠  
しただだし

1949年、埼玉県入間郡大井村(現・ふじみ野市)生まれ。71年、日本大学農獣医学部畜産学科卒業後、動物雑誌『アニマ』(平凡社)創刊に参加。80年、『カワセミ 清流に翔ぶ』で第17回太陽賞、日本写真協会新人賞。86年、『火の鳥 アカショウビン』で日本写真協会年度賞。80年より北海道を拠点に活動。90年代からは映像作品の制作を手がけ、『エゾモモンガ』でIBA国際放送広告賞を、『風の王国・生命の森』でギャラクシー奨励賞を受賞。

## 嶋田 忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界

SHIMADA TADASHI ; WILD MOMENTS The World of Beautiful Birds

2F 2019.7.23|火|-9.23|月・祝|

スタンプラリー開催!  
詳細はP11へ

嶋田忠は、カワセミ類を中心に、鳥獣の写真家として知られています。圧倒的な存在感と神々しいまでの生命力をもったカワセミやアカショウビンを力強く捉えた作品から、湿潤な日本の風土に生きる鳥獣を、日本画の伝統である「自然から学ぶ」意識と感性に裏打ちされた目で捉えた繊細な作品まで、その多彩な表現は高く評価されています。

本展では、作家の約40年に及ぶ創作活動を概観するとともに、「世界最古の熱帯雨林」といわれるニューギニア島を舞台に、不思議な生態と華麗な姿で人々を魅了する貴重な野生動物を紹介します。嶋田忠の優れた感性と最新の技術が融合した“奇跡の瞬間”に、どうぞご期待ください。

### | 関連イベント

連続対談「空の王者、大いに語る」

[日時]  
2019.8.3(土) 14:00- 「鳥と生きる」 安西英明(公益財団法人日本野鳥の会 主席研究員)×嶋田忠

2019.8.10(土)14:00- 「陸の覇者×空の王者」 宮崎学(写真家)×嶋田忠

2019.8.17(土)14:00- 「鳥から学ぶ」 樋口広芳(東京大学名誉教授、鳥類学)×嶋田忠  
聴講無料/各回14:00より/会場:2階展示室前ロビー(先着順・定員50名)

[主催] 公益財団法人東京歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 [後援] ふじみ野市/ふじみ野市教育委員会 [特別協賛] キヤノンマーケティングジャパン [協賛] ライオン/大日本印刷/損保ジャパン日本興亜/日本テレビ放送網/東京都写真美術館支援会員 [制作協力] NHKエンタープライズ

[観覧料] 一般 700(560)円/学生 600(480)円/中学生・65歳以上 500(400)円 ※( )は20名以上の団体料金 7月25日(木)-8月30(金)の木・金17:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引(学生・中学生無料、一般・65歳以上は団体料金) ※各種割引の併用はできません。9月16日(月・祝)敬老の日は65歳以上無料。

〈特別上映〉嶋田 忠 撮影監督

『ワイルドライフ』

[日時] 2019.8.24(土) 14:00-

[協力] NHKエンタープライズ

※アフタートークあり

入場無料/会場:1階ホール(定員190名)/

要入場整理券

※当日午前10時より1階総合受付にて整理券を配布

アーティストによるネイチャートーク

8月の毎週日曜日、14:00-16:00、2Fロビーにて、出品作家の嶋田忠が自然や写真についてお答えします。参加無料。

サマーナイト・アーティストトーク

2019.8.2(金)および8.16(金)18:00-

嶋田忠によるギャラリートークを行います。観覧会チケット(当日有効)をご持参ください。 ※8.16(金)は手話通訳つき

| 担当学芸員によるギャラリートーク

毎月第2・4金曜日14:00より。観覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

## 宮本隆司 いまだ見えざる場所

Miyamoto Ryuji Invisible Land

2F 2019.5.14|火|-7.15|月・祝|

建築空間を題材に独自の視点によるシリーズ作品〈建築の黙示録〉(丸龍城砦)などで広く知られる宮本隆司。近年は、両親の故郷である奄美群島・徳之島でアートプロジェクトを企画・運営するなど新たな展開を見せています。本展では初期作品から、アジアの辺境や都市を旅した作品、徳之島で取り組んだ近作を展示します。

### | 関連イベント 対談

[登壇者] 佐々木幹郎(詩人)×宮本隆司 [日時] 2019.6.22(土) 14:00-15:30

[会場] 1階ホール(整理番号順入場/自由席)、定員190名

※当日10時より1階受付にて整理券を配布します

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

[主催] 東京都 東京都写真美術館/朝日新聞社 [特別協賛] キヤノンマーケティングジャパン株式会社

[観覧料] 一般 700(560)円/学生 600(480)円/中学生・65歳以上 500(400)円 ※( )は20名以上の団体料金



《面縄ピンホール2013》2013年 作家蔵 ©Ryuji Miyamoto Courtesy of Taka Ishii Gallery Photography / Film

### | 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より。本展チケット(当日消印)をご持参ください。

## TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語

TOP Collection Reading Images: The Stories of Four Places

3F 2019.5.14|火|-8.4|日|



W. ユージン・スミス《夜通して手術を行った後、台所で休むセラピー二医師、コロラド州クレムリング 1948年》(カントリー・ドクター)より 1948年 ©2019 The Heirs of W.Eugene Smith/PPS

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

TOPコレクションは35,000点を超える当館コレクションから選りすぐった作品を紹介する展覧会です。今年のテーマは「イメージを読む」。作品という視覚的なイメージとその読み解き方を考えます。本展では、「場所」と密接にかかわった4人の作家を取り上げ、作品から生まれる物語的な世界の広がりを見つめます。場所にある生活や風景、出来事だけではなく、その向こう側にある物事の本質や普遍的な意味を、時代の文脈やテキストとともに楽しみます。

### | 関連イベント じっくり見たり、ゆっくりしよう!

暗室での写真制作を体験したり、展示室で作品について楽しく話し合ったり、一度にさまざまな体験ができるプログラムです。※作品解説ではありません。

[日時] 2019.7.27(土) 10:30-12:30、および7.28(日) 10:30-12:30

[対象] 小学生とその保護者(2人1組) [会場] 1階スタジオ

[定員] 各日10組 事前申込制 先着順

[参加費] 800円(別途展覧会チケットが必要です)

※詳細はホームページをごらんください

### | 担当学芸員によるギャラリートーク

6月21日、7月5日、7月19日各金曜日16:00

より、および7月26日(金)18:00より。展覧

会チケット(当日有効)をご持参ください。

### | 手話通訳つきギャラリートーク

左記のうち7月5日(金)、7月26日

(金)は手話通訳つきギャラリートークを行います。

[主催] 東京都 東京都写真美術館 [協賛] 凸版印刷株式会社

[観覧料] 一般 500(400)円/学生 400(320)円/中学生・65歳以上 250(200)円 ※( )は20名以上の団体料金 7月18日(木)-8月2日(金)の木・金17:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引(学生・中学生無料、一般・65歳以上は団体料金) ※各種割引の併用はできません。

# TOPコレクション イメージを読む 写真の時間

TOP Collection Reading Images: The Time of Photography

3F 2019.8.10|土|-11.4|月・振休|

TOPコレクションは東京都写真美術館の収蔵作品を紹介する展覧会です。今年のテーマは「イメージを読む」。作品という視覚的なイメージとその読み解き方を考えます。本展は35,000点を超える当館コレクションから選び抜かれた個々の作品や、複数点からなるシリーズ作品を通して、それぞれが語りかけてくる物語に着目します。

8月から始まる本展では、写真というメディアが持つ時間性と、それによって呼び起こされる物語的要素に焦点を当ててご紹介します。一般的に、写真とは一瞬の時間を切り取ったものと捉えられるかも

りません。しかし、私たちが目にする際、そのイメージは記憶の奥深くにまで動きかけ、現在だけではなく過去や未来の時間、はたまた音や匂いといった視覚以外の感覚を連れてくることもあります。

本展は、写真と時間、そしてそこに横たわる物語との関係性を、「制作の時間」、「イメージの時間」、「鑑賞の時間」という3つのキーワードから考えます。古今東西の作家たちのさまざまな取り組みを通し、作家たちが時間という目には見えない存在とどのように向き合い、視覚化しようとしてきたのかを探ります。「写真の時間」を、ぜひお楽しみください。

## 第1章

### 制作の時間

写真の歴史の始まりである初期写真をはじめに、長時間露光、ブレといったカメラの特性を生かした技法を用いた作品など、写真の制作過程において時間と深い関係性のある作品を紹介します。



1) 緑川洋一《ほたるの乱舞》〈瀬戸内海とその周辺〉より 1957年 ゼラチン・シルバー・プリント  
2) 田口和奈《あなたを待っている細長い私(2)》2007年 ゼラチン・シルバー・プリント



2

#### 主な出品作家

伊藤義彦、川内倫子、佐藤時啓、杉本博司、田口和奈、土田ヒロミ、奈良原一高、畠山直哉、濱谷 浩、緑川洋一、森山大道、米田知子、ウジェーヌ・アジェ、ロバート・キャパ、ハリー・キャラハン、ウィリアム・クライン、シンディ・シャーマン、W.ユージン・スマイス、シャルル・マルヴィル、ジョナス・メカス、エドワード・ルシェ ほか

【主催】東京都写真美術館 【協賛】 凸版印刷株式会社

【観覧料】 一般 500(400)円 / 学生 400(320)円 / 中高生・65歳以上 250(200)円 ※( )は20名以上の団体料金 8月15日(木)~8月30(金)の木・金17:00~21:00はサマーナイトミュージアム割引(学生・中高生無料、一般・65歳以上は団体料金) ※各種割引の併用はできません。9月16日(月・祝)敬老の日は65歳以上無料。

## 第2章

### イメージの時間

写真は通常、ある一定の時間を切り取ってイメージにしたものですが、作家たちはときに「時間」という目には見えない対象と向き合い、時間の厚みを感じさせる作品を生み出してきました。多岐にわたる豊かな表現を紹介します。



3

## 第3章

### 鑑賞の時間

私たちは展示室で移動したり、立ち止まったりしながら作品を鑑賞します。ここでは、鑑賞という体験の時間に焦点を当てます。鑑賞する時間とイメージの時間は交錯し、私たちの想像力を刺激します。そのような鑑賞の経験と可能性を、現代作家の作品を中心に上げます。



6



3) 米田知子《安部公房の眼鏡-『箱男』の原稿を見る》(Between Visible and Invisible)より 2013年 ゼラチン・シルバー・プリント 4) 畠山直哉《Slow Glass/ Tokyo #066》2006年 発色現象方式印画 5) NASA《月面の影》1966-68年 ゼラチン・シルバー・プリント

#### 関連イベント

サマーナイトミュージアム特別企画 対話型作品鑑賞会

【日時】2019.8.23(金)18:00より

参加者で対話を交えながら作品を鑑賞します。※作品解説ではありません。本展チケット(当日消印)をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

#### クロマキーランド

「クロマキー合成」によって、実際にはそこにはない背景と人物を組み合わせたユニークな記念写真を撮影します。

【日時】2019.9.14(土)14:00-17:00 参加無料、事前申込不要

【対象】どなたでもご参加いただけます

#### じっくり見たり、つくったりしよう!

写真にまつわる制作を体験したり、展示室で作品について楽しく話し合ったり、一度にさまざまな体験ができるプログラムです。※作品解説ではありません。

【日時】2019.11.2(土)10:30-12:30 【対象】小学生とその保護者(2人1組)

【定員】10組 事前申込制、先着順

【参加費】800円(別途本展チケットが必要です)

#### 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、展示室で言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。

【日時】2019.9.1(日)、10.13(日)10:30-13:00

【対象】どなたでもご参加いただけます

【定員】各日7名 事前申込制 応募多数の場合は抽選

【参加費】500円(別途本展チケットが必要です)

※各プログラムの申込方法など、詳細は当館ホームページでご確認ください。

#### 担当芸員によるギャラリートーク

毎月第1・3金曜日16:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

#### 手話通訳つきギャラリートーク

2019年9月6日(金)、10月4日(金)、11月1日(金)16:00より手話通訳つきギャラリートークを行います。本展チケット(当日消印)をご持参ください。

図版はすべて東京都写真美術館蔵

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

6) 川内倫子《無題》(Illuminance)より 2007年 発色現象方式印画

# しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ

Her Own Way - Female Artists and the Moving Image in Poland:  
From 1970s to the Present

**B1F** 2019.8.14|水|-10.14|月・祝|

スタンプラリー開催!  
詳細はP11へ

東京都写真美術館では、日本・ポーランド国交樹立100周年を記念して、東欧の文化大国ポーランドの同時代美術を、女性作家と映像表現のあり方に注目して紹介する展覧会を開催します。20世紀ポーランドの美術史・映像史は、多くの男性たちの名によって語られてきました。しかし、ベルリンの壁崩壊後いっきに東側に流れ込んできたグローバル経済の波に参画し、EU加盟も果たした21世紀のポーランドにおいて、女性たちによる多くの表現が、特に映像領域で存在感を放っています。同時に、これまで十分に語られてこなかった前世紀における女性作家による映像表現の先駆例について再検証しようという流れが生まれています。

本展は、ポーランド同時代美術の歩みを、その時代背景をふまえながら新たな視点で読み解くとともに、世代を異にするアーティストたちが、自身のおかれた社会環境を見つめ、それぞれの表現方法で発信する術をいかに見出してきたかをたどる、きわめて意欲的な展覧会です。

カロリナ・ブレグワ《嗚呼、教授!》2018年 Courtesy of the artist▶



1



2



3



4



5



6

## 担当学芸員によるギャラリートーク

毎月第1・3金曜日14:00、および8月30日(金)18:00より。展覧会チケット(当日有効)をご持参ください。

## | 手話通訳つきギャラリートーク

9月6日(金)、9月20日(金)14:00より手話通訳つきギャラリートークを行います。展覧会チケット(当日有効)をご持参ください。

## | 関連イベント

### 出品アーティストによるリレートーク

[日時] 2019.8.15(木)18:00-19:30(17:45開場)

ヨアンナ・ライコフスカ、カール・ラヂェフスキ、ヤナ・シオスタク(出品作家)

[会場] 1階スタジオ(定員50名) 聴講無料 日英通訳付

※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布

### 講演会「ポーランド美術とフェミニズム(仮)」

アンナ・クテラ(出品作家)、マリカ・クジミチ(美術史家、アルトン財団代表)、アグニエシュカ・レイザヘル(lokal\_30ディレクター)

[日時] 2019.8.18(日)13:30-16:30(13:15開場)

### 講演会「クリティカル・アート潮流の中で(仮)」

アンダ・ロッテンベルク(美術史家、批評家)、加須屋明子(キュレーター、美術史家、京都市立芸術大学教授)

[日時] 2019.8.31(土)13:30-16:30(13:15開場)

[会場] 1階ホール(定員190名) 聴講無料 日英通訳付

※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布

\*詳細は、当館ホームページにてお知らせいたします。

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

1)エヴァ・バルトゥム《ドローイングTV》1976年 Courtesy of the artist and Arton Foundation, Warsaw

2)アンナ・モルスカ《ヘカトゥーム》2011年 Courtesy of the artist and Foksal Gallery Foundation, Warsaw  
3)ヨアンナ・ライコフスカ《パシヤ》2009年[参考図版] Courtesy of the artist and l'étrangère Gallery, London | photo:

Marek Szczepański 4)カール・ラヂェフスキ《カロールとナタリア

LL》2011年 Courtesy of the artist and BWA Warszawa, Warsaw  
5)ズザンナ・ヤニン《闘い》2001年 Courtesy of the artist and Lokal\_30, Warsaw  
6)アンナ・ヨヒメク&ディアナ・レロネク《ディレクトレシ(女性館長)》2017年 Courtesy of the artists

[主催] 東京都 東京都写真美術館/日本経済新聞社 [特別協力] アダム・ミツキェヴィッチ・インスティテュート/Culture.pl [後援] ポーランド 広報文化センター [協賛] 凸版印刷株式会社

[観覧料] 一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円 ※()は20名以上の団体料金 8月15日(木)-8月30日(金)の木・金17:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引(学生・中高生無料、一般・65歳以上は団体料金) ※各種割引の併用はできません。9月16日(月・祝)敬老の日は65歳以上無料。



# 洞窟 虚像と実像 (仮称)

from the cave (tentative)

2F 2019.10.1 | 火 | - 11.24 | 日 |

わたしたちは普段、主に視覚から情報を得ていると言われてます。その視覚的情報を、もっとも忠実に写しとるのが写真だと、あたりまえのように思っています。しかし、同じ光景を見ても感じとることは人によって異なり、同じ写真や映像を見ても、異なる感覚をおぼえます。それでは写真や映像において、実のところ、何が起きているのでしょうか。「洞窟」というモチーフは、この問題を考えるうえで、思いがけないヒントを私たちに与えてくれることがあります。

本展覧会では、19世紀の化学者であり、光学研究者であるジョン・ハーシェル(1792-1871)が、カメラ・ルシダー\*1をもちいて描いた「洞窟」のドローイングから考察をはじめます。そして、オサム・ジェームス・中川(1962-)が撮影した沖縄の洞窟「ガマ」、北野謙のフォトグラム\*2を用いた新作、ドイツを代表する現代美術家ゲルハルト・リヒター(1932-)の作品群など、現代作家の新・近作を一堂に会し、写真と現実との関係をさまざまなアプローチで考えていきます。

\*1 目に見える風景など三次元の世界を正確にスケッチするための光学的な器具。

\*2 カメラを使わず、さまざまな物体を印画紙に直接のせて、イメージを写しとる写真の制作技法。

## 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より。展覧会チケット(当日有効)をご持参ください。

## 関連イベント

会期中に関連イベントを開催します。詳細は決定次第ホームページにてお知らせします。

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

すべて東京都写真美術館蔵



ジョン・ハーシェル《海辺の断崖にある洞窟、イングランド、デヴォン州ドーリッシュ》1816年



オサム・ジェームス・中川《GAMA CAVE》2010年 発色現像方式印画



ゲルハルト・リヒター (museum visit)より《MV6》2011年 発色現像方式印画にエナメル

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 東京新聞 [協賛] 凸版印刷株式会社 / 東京都写真美術館 支援会員 [観覧料] 一般 800(640)円 / 学生 700(560)円 / 中学生・65歳以上 600(480)円 ※ ( ) は20名以上の団体料金

# 生誕120年 山沢栄子 私の現代

Eiko Yamazawa: What I am doing

3F 2019.11.12 | 火 | - 2020.1.26 | 日 |

日本における女性写真家の草分けであり、写真による独自の芸術表現を探究した山沢栄子の生誕120年を記念した展覧会を開催します。

山沢栄子は1899年大阪に生まれ、東京の私立女子美術学校日本画科選科を卒業。その後油絵と写真を独学し、1926年に単身渡米しました。山沢はサンフランシスコのカリフォルニア美術学校で油絵を学ぶ一方、現地で知り合ったアメリカ人写真家コンスエロ・カナガの助手となり、写真技術を習得します。そして1929年に帰国後、大阪に写真スタジオを開設し、ポートレート写真家として活躍しました。戦前の作品の多くは戦災で失われましたが、俳優の山本安英らを写したポートレートは、人の内面をとらえる優れた表現力を見せています。

戦後は商業写真家として再出発しますが、カナガに招かれて1955年にアメリカを再訪した後、抽象的な写真作品の制作に転じます。そして1968年に神戸に移住した頃より、精力的に作品を発表し、関西の前衛芸術家の一人として認められるようになりました。それらの作品は、写真と美術、戦前と戦後、日本とアメリカなど、一人の女性写真家をめぐる幾多



《新聞配達少年》1960年 写真集『遠近』より グラビア印刷 個人蔵

の背景を想起させます。

本展では、現存する1970-80年代の作品を中心に、山沢の抽象表現の原点を示す1960年代の写真集、戦前の活動を伝えるポートレートや関連資料など、約130点を展示します。あわせて、山沢がその潮流に触れた1920-50年代のアメリカの作家の作品約20点を参考作品として紹介します。

日本において独自の地平で創作を続けた山沢栄子の歩みをたどるこの試みは、日本写真史および日米文化交流史の一面に新たな光を投げかけることでしょ



《コンスエロ・カナガ女史》1955年 ゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵



《What I am doing No.77》1986年 銀色素漂白方式印画 大阪中之島美術館蔵



《What I am doing No.78》1986年 銀色素漂白方式印画 大阪中之島美術館蔵

## 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・第3金曜日14:00より。展覧会チケット(当日有効)をご持参ください。

## 関連イベント

会期中に関連イベントを開催します。詳細は決定次第ホームページにてお知らせします。

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

[主催] 東京都 東京都写真美術館 [特別協力] 大阪中之島美術館準備室 / 西宮市大谷記念美術館 ※この展覧会は西宮市大谷記念美術館との共同開催です。

[観覧料] 一般 700(560)円 / 学生 600(480)円 / 中学生・65歳以上 500(400)円 ※ ( ) は20名以上の団体料金

# 世界報道写真展2019

World Press Photo 2019

**B1F** 2019.6.8|土|-8.4|日|

世界報道写真コンテストの受賞作を紹介する「世界報道写真展」は、世界中の約100会場で開催される世界最大級の報道写真展です。62回目を迎えた今回のコンテストには129の国と地域から4,738人のフォトグラファーが参加し、78,801点もの応募がありました。地球上で「いま」起きていることを伝える写真の数々をご紹介します。



世界報道写真大賞 スポットニュースの部 単写真1位  
ジョン・ムーア (アメリカ、Getty Images)

## 関連イベント

フォトドキュメンタリー・ワークショップ

[日時] 2019.7.13(土)、14日(日)、15日(月・祝)

※3日間連続の受講が必要です

事前申込制、有料 ※詳細は当館ホームページをごらんください

国内では数少ないフォトドキュメンタリー／フォトジャーナリズムの現場を学べるワークショップです。フォトドキュメンタリーの最前線で活躍する講師を迎え、レクチャー、ポートフォリオ・レビュー、クイック・ヒット・エッセイ制作を行います。

[主催] 世界報道写真財団／朝日新聞社 [共催] 東京都写真美術館 [後援] オランダ王国大使館／公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会／全日本写真連盟 [協賛] キヤノンマーケティングジャパン株式会社／Getty Images ジャパン株式会社 [協力] 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本  
[観覧料] 一般 800(640)円／学生 600(480)円／中高生・65歳以上 400(320)円 ※()は20名以上の団体料金 ※サマーナイトミュージアム割引適用外

## トップに行こう!

### 「TOPスタンプラリー2019」

対象の展覧会を観覧してスタンプを集めると、すてきなオリジナルグッズがもらえます。

スタンプラリー期間  
2019.8.14(水)-11.24(日)

カード配布期間 2019.8.14(水)-11.4(月・振)  
グッズ交換期間 2019.8.14(水)-11.24(日)

#### 対象の展覧会

- 3階 「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」展(本誌5-6P)
- 3階 「生誕120年 山沢栄子 私の現代」展(10P)
- 2階 「嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」展(1-3P)
- 2階 「洞窟 虚像と実像」展(仮称)(9P)
- B1階 「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ」展(7-8P)

各展示室に入場時に受付カウンターにてスタンプカードをお渡しします。

詳細は7月下旬頃よりホームページでお知らせします。

## サマーナイトミュージアム

木・金の夜は美術館でゆっくりと過ごしませんか。

東京都写真美術館は、7月18日(木)-8月30日(金)の木・金曜日は21:00まで開館します。期間中の木・金17:00-21:00は、対象の展覧会が、学生・中高生は無料(学生証を提示)、一般・65歳以上は団体料金でご鑑賞いただけます(「世界報道写真展2019」を除く)。チケット販売は20:30までです。



期間中はイベントやギャラリートークも開催! 詳細は決定次第当館ホームページでお知らせします。

1F HALL / 上映

最新の上映スケジュールはこちら▶



## 1F アピチャッポン・ウィーラセタクン 幻の映画上映

アートと映画の両分野で活躍するタイのアピチャッポン・ウィーラセタクン。当館では2016年に映像展「アピチャッポン・ウィーラセタクン 亡霊たち」が開催されました。本プログラムでは、今年、アピチャッポン監督の名作「トロピカル・マラディ」のシナリオが書籍化されるにあたり、ファンの熱い要望を受け同作品を再上映。また、今夏より南米コロンビアで新作映画の撮影を開始するアピチャッポンが、2017年に現地で撮影の準備をする様子をカメラにおさめたドキュメンタリー「A.W.アピチャッポンの素顔」(撮影 コナー・ジュサップ)を日本初公開します。

[上映期間] 2019.7.6(土)、7(日)2日間とも同プログラム  
[上映時間] 13:20~「トロピカル・マラディ」上映(118分)2004年  
16:00~「A.W.アピチャッポンの素顔」上映(47分)2018年  
[料金] 全席指定 1,300円均一(前売券はライブポケットの電子チケットのみ。6月中旬発売) ※各種割引はございません



©Courtesy of Kick the Machine Films.

〈お問い合わせ先〉  
トモ・スズキ・ジャパン  
03-5468-7172

## 1F ドキュメンタリー映画「岡本太郎の沖縄」

“TARO OKAMOTO'S OKINAWA - WHAT HE FOUND”

もう一度、太郎と沖縄を彷徨う旅に出る。

日本を代表する芸術家・岡本太郎(1911-1996)。彼は、1959年と1966年に沖縄に旅に出た。きっかけは、日本人としてのアイデンティティを探し求めることを目的に、日本中を旅したことだった。彼の究めたかったものは、日本人とはなにか? 自分自身とはなにかの答えを求めることだった。その旅のいちばん最後にたどりついたのが、沖縄であった。

岡本太郎の沖縄は、今の私たちに何を投げかけ、今の私たちとどうつながるのか? あるいは、つながらないのか? それを確かめに行くドキュメンタリー映画である。

[上映期間] 2019.7.13(土)-8.2(金) [休映日] 2019.7.16(火)、7.22(月)、7.27(土)、7.29(月) [上映時間] 未定  
[料金] 当日券: 一般1,700円、学生1,400円、シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方 1,100円/当日券割引あり



©2018 岡本太郎の沖縄製作委員会

岡本太郎の沖縄  
オフィシャルサイト  
<http://okamoto-taro.okinawa/>

## 1F 「ひかりの歌」 特別上映:「ひとつの歌」/「河の恋人」+「遠くの水」

全国でのロングラン公開を果たしている杉田協士監督7年ぶりの長編作品「ひかりの歌」。この度、東京都写真美術館ホールでの都内凱旋上映が決定しました。さらに特別上映として、リクエストの多かった劇場デビュー作「ひとつの歌」、さらに「河の恋人」「遠くの水」が久々にスクリーンに登場します。「ひかりの歌」への軌跡を辿る貴重な機会です。

[上映期間] 2019.8.3(土)-12(月・祝) [休映日] 8.5 [上映時間] ホームページをご確認ください [料金]

「ひかりの歌」一般 1,700円/学生 1,500円  
「ひとつの歌」一般 1,500円/学生 1,300円  
「河の恋人」+「遠くの水」一般 1,500円/学生 1,300円  
いずれもシニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方 1,100円/当日券割引あり



©光の短歌映画プロジェクト

ひかりの歌 オフィシャルサイト  
<http://hikarinouta.jp/>

## 各種割引

以下の方は当日料金が割引になります。  
当館年間バスポート提示、当館での展覧会・映画の半券提示、MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)提示、JREカード(アトレビューSuicaカードより移行のクレジットカード)提示、(公財)東京都歴史文化財団が管理する施設の友の会会員証・年間バスポート提示  
上映によって割引料金が異なります。詳細はお問い合わせください。

# 支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、  
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》  
キャノン(株)  
(株)資生堂  
全日本空輸(株)  
(株)ニコン

《賛助会員》  
キャノンマーケティングジャパン(株)  
ゲッティイメージズジャパン(株)  
大日本印刷(株)  
東急建設(株)  
凸版印刷(株)  
富士フィルム(株)  
(株)リコー

《特別支援会員》  
アサヒグループホールディングス(株)  
サッポロ不動産開発(株)  
サッポロホールディングス(株)

《支援会員》  
(株)アール&キャリア  
(株)I&S BBDO  
あいおいニッセイ同和損害保険(株)  
アオネオン(株)  
(株)浅沼商会  
旭化成(株)  
朝日新聞社  
(株)朝日新聞出版  
朝日生命保険(相)  
有限会社アスペン/POLARIS  
(株)アマナ  
(株)岩波書店  
(株)潮出版社  
(株)栄光社  
(株)エージーピー  
(株)エスジー  
(株)ADKクリエイティブ・ワン  
(株)NHKアート  
NHK営業サービス(株)  
(株)NHKエデュケーション  
(株)NHKエンタープライズ  
(株)NHKグローバルメディアサービス  
(株)NHK出版  
(株)NHKビジネスクリエイト  
(株)NHKテクノロジーズ  
エルメス財団  
オリンパス(株)  
(株)オンワードホールディングス  
カールツァイス(株)  
花王(株)  
加賀電子(株)

鹿島建設(株)  
(株)KADOKAWA  
カトーレック(株)  
神奈川新聞社  
カメラショップ(株)  
(株)かんぽ生命保険  
(株)キクチ科学研究所  
(株)キタムラ  
キッコーマン(株)  
(株)紀伊屋書店  
ギャラリー小柳  
共同印刷(株)  
(株)共同通信社  
空港施設(株)  
(株)久米設計  
グローリー(株)  
(株)ケー・アンド・エル  
ケンコー/トキナー/スリック  
興亜硝子(株)  
(株)弘亜社  
(株)廣済堂  
(株)講談社  
(株)光文社  
(株)国書刊行会  
(株)コスモスインターナショナル  
(株)コーセー  
コダック(同)  
コダックアラリスジャパン(株)  
小山登美夫ギャラリー(株)  
三菱石油(株)  
三機工業(株)  
産経新聞社  
サントリーホールディングス(株)  
(株)サンライズ  
(株)ジェイアール東日本企画  
JSR(株)  
JXTGホールディングス(株)  
(株)JTB  
ジェイティービー印刷(株)  
(株)シグマ  
(株)実業之日本社  
信濃毎日新聞社  
清水建設(株)  
(株)写真弘社  
写真の学校/東京写真学園  
チャネル(株)  
(株)集英社  
シュッピン(株)  
(株)主婦と生活社  
(株)小学館  
城西国際大学メディア学部  
松竹(株)  
信越化学工業(株)

(株)新潮社  
(株)スタジオアリス  
(株)スタジオエムジー  
(株)スタジオジブリ  
(株)SUBARU  
住友化学(株)  
住友生命保険(相)  
(株)生活の友社  
セイコーホールディングス(株)  
成美製版(株)  
双日(株)  
ソニー(株)  
損害保険ジャパン日本興亜(株)  
第一生命保険(株)  
第一法規(株)  
(株)ダイケンビルサービス  
(株)ケー・アンド・エル  
大成建設(株)  
(株)大丸松坂屋百貨店  
大和証券(株)  
(有)タカ・イシイギャラリー  
高砂熱学工業(株)  
(株)高島屋  
(株)宝島社  
(株)竹中工務店  
玉川大学芸術学部  
(株)タムロン  
(株)丹青社  
(株)中央公論新社  
中外製薬(株)  
帝人(株)  
(株)TBSテレビ  
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)  
(株)テレビ朝日  
(株)テレビ東京  
電源開発(株)  
(株)電通  
東亜建設工業(株)  
東映(株)  
東京海上日動火災保険(株)  
東京急行電鉄(株)  
東京工芸大学  
東京新聞・中日新聞社  
(株)東京スタデオ  
東京造形大学  
東京総合写真専門学校  
東京建物(株)  
東京地下鉄(株)  
東京テアトル(株)  
東京都競馬(株)  
(株)東京ドーム  
(株)東京ニュース通信社

(学)専門学校 東京ビジュアル  
アーツ  
(株)東京美術倶楽部  
東京メトロポリタンテレビ  
ジョン(株)  
(株)東芝  
東宝(株)  
(株)東北新社  
(株)東洋経済新報社  
(株)トキワ  
(株)徳間書店  
戸田建設(株)  
トヨタ自動車(株)  
(株)トロンマネージメント  
(株)ニコンイメージングジャパン  
日油(株)  
日活(株)  
(株)日経BP  
日光ケミカルズ(株)  
日産自動車(株)  
(株)日本カメラ社  
(有)タカ・イシイギャラリー  
日本空港ビルディング(株)  
日本経済新聞社  
日本航空電子工業(株)  
(株)日本広告社  
(公社)日本広告写真家協会  
日本コルマー(株)  
日本写真印刷コミュニケー  
ションズ(株)  
(公社)日本写真家協会  
(公社)日本写真協会  
日本写真芸術専門学校  
(一社)日本写真文化協会  
日本生命保険(相)  
日本大学芸術学部  
(株)日本デザインセンター  
日本テレビ放送網(株)  
(株)ニッポン放送  
日本レコードマネージメント(株)  
日本ロレックス(株)  
(株)ニューアートディフェ  
ュレーション  
野村證券(株)  
(株)博報堂  
(株)博報堂DYメディア  
パートナーズ  
(株)博報堂プロダクツ  
(株)ハースト婦人画報社  
(株)ハーツ  
バナノニック(株)  
(株)パラゴン  
びあ(株)  
ビービーメディア(株)  
北海道 写真の町東川町  
東日本旅客鉄道(株)

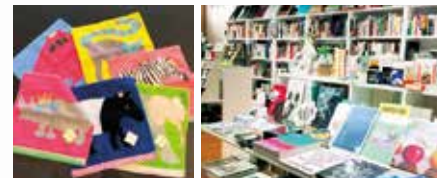
光写真印刷(株)  
(株)ビクトリコ  
(株)美術出版社  
(株)ビツカカメラ  
(株)ピラミッドフィルム  
(株)ファーストリテイリング  
(株)フェドラ  
(株)フォトメディア  
(株)フジテレビジョン  
(株)フジヤカメラ店  
(株)ブラザークリエイト  
(株)プリンスホテル  
(株)フレームマン  
プロフォト(株)  
(株)文化工房  
(株)文藝春秋  
北海道新聞社  
(株)ホテルオークラ東京  
(株)堀内カラー  
本田技研工業(株)  
毎日新聞社  
(株)マガンジハウス  
丸善(株)  
マルミ光機(株)  
(株)マンダム  
(株)みずほ銀行  
三井住友海上火災保険(株)  
三井倉庫ホールディングス(株)  
三井不動産(株)  
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店  
三菱地所(株)  
三菱製紙(株)  
三菱倉庫(株)  
三菱電機(株)  
三菱UFJ信託銀行(株)  
(株)ミルボン  
武蔵大学  
明治安田生命保険(相)  
森ビル(株)  
ヤマトグローバルロジステ  
クスジャパン(株)  
(株)吉野工業所  
(株)ヨドバシカメラ  
読売新聞社  
ライオン(株)  
ライカカメラジャパン(株)  
リコーイメージング(株)  
リシュモン ジャパン(株)  
モンブラン  
(株)良品計画  
(株)ロボット  
(株)ワコウ・ワークス・オブ・  
アート  
(株)ワコール

2F SHOP  
ミュージアム・  
ショップ

NADIFT  
BAITEN

展覧会関連書籍はもちろん、季節のグッズも充実のミュージアム  
ショップ。可愛いのはもちろん、雨の日も晴れの日も大活躍間違  
いなし! コスチュームデザイナー ひびのこづえさんが手掛けるハ  
ンカチ。なかでも王冠の刺繍をあしらった動物モチーフのタオル  
ハンカチが人気です。

ひびのこづえ 動物タオルハンカチ 540円(税込)



詳細は  
こちらから



営業時間/10:00-18:00  
(木・金は20:00まで ※7.18-8.30の木・金は21:00まで)  
TEL/03-6447-7684  
定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

1F CAFE  
カフェ

MAISON ICHI  
BOULANGER-PÂTISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

LUNCH MENU (11:30-15:00)

本日のキッシュ(自家製パン付き) 1,296円  
季節のスूपとデリプレート(自家製パン付き) 1,296円

自家製パン、ドリンクはお持ち帰りできます  
自家製サンド 480円~ キッシュ各種 571円  
スペルト小麦の田舎パン 1/4サイズ 430円 ホール1,620円  
自家製レモンシロップのレモネード 480円  
ホットコーヒー 486円/ティー 540円  
ジュース・アルコール類もあります。  
メニューは予告なく変更される場合があります。(価格はすべて税込)



詳細は  
こちらから



営業時間/10:00-19:00  
(木・金は20:00まで ※7.18-8.30の木・金は21:00まで)  
TEL/03-6277-3862 定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)



# SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、  
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2019 6	TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語 (取)	宮本隆司 いまだ見えないところ (取)	世界報道写真展2019 6.8(土) - 8.4(日)	二宮金次郎 6.1(土) - 6.28(金)
7	5.14(火) - 8.4(日)	嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界 (企)	しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像	アビチャップン・ ウィーラセタン 幻の映画上映
8	TOPコレクション イメージを読む 写真の時間 (取)	7.23(火) - 9.23(月・祝)	1970年代から現在へ (取)	7.6(土)・7.7(日)
9	8.10(土) - 11.4(月・振休)	洞窟 虚像と実像(仮称) (企)	8.14(水) - 10.14(月・祝)	「岡本太郎の沖繩」 7.13(土) - 8.2(金)
10	生誕120年 山沢栄子 私の現代 (取)	日本の新進作家 vol.16 至近距離の宇宙(仮称) (企)	写真新世紀東京展2019 10.19(土) - 11.17(日)	「ひかりの歌」 特別上映: 「ひとつの歌」/ 「河の恋人」+「遠くの水」
11	11.12(火) - 2020.1.26(日)	11.30(土) - 2020.1.26(日)	中野正貴(仮称) 11.23(土・祝) - 2020.1.26(日)	8.3(土) - 12(月・祝)

「ぐるっとバス 2019」の  
詳細はこちら▶



(取) 収蔵展 (企) 企画展  
年間パスポートの詳細はこちら▶



## 東京都写真美術館 年間パスポート「TOP MUSEUM PASSPORT 2019」発売

当館の展覧会を無料または割引でご観覧いただけるお得なパスポートです。販売価格:3,240円(税込) 販売期間:2019年4月2日(火) - 2019年9月29日(日)  
有効期間:2019年4月2日(火) - 2020年3月31日(火) 販売場所:当館1階総合受付  
スケジュール内の(取)は無料、(企)は4回まで無料、その他は割引料金となります。特典等の詳細は、当館ホームページのご利用案内よりご確認ください。

## 割引料金について

展覧会を割引料金にてご観覧いただけます

1. 20名以上の団体のお客様 観覧料が2割引  
2. 各種会員の方 観覧料が2割引  
□ JRE CARD (2018年7月2日にアトレビューSuicaカードより移行のクレジットカード)  
□ MIカード (三越伊勢丹グループのクレジットカード)  
□ ウェルカムカード (訪日外国人向けの割引カード)  
□ 当館映画鑑賞券提示者  
□ 財団他館友の会、年間パスポート会員  
□ JR東日本「大人の休日倶楽部」カード  
3. 親子ふれあいデー (毎月第3土曜日と引き続く日曜日が対象)  
観覧料が5割引  
□ 都民で18歳未満のお子様を連れてご家族が対象です。  
※詳しくはお問い合わせください。

割引対象

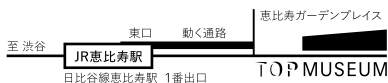
展覧会を無料でご観覧いただけます

1. □ 小学生以下  
□ 障がい者手帳提示者及びその介護者(2名まで)  
□ 被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)  
□ 愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)  
□ 精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)  
□ 東京都内在住・在学の中学生  
※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。  
当館までお問い合わせください。
2. シルバーデー (毎月第3水曜日)  
□ 65歳以上の方 ※証明できるものの提示が必要です

無料対象

## 東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00(木・金は20:00まで)、ただし、7月18日(木) - 8月30日(金)の木・金は21:00まで開館。入館は閉館30分前まで。  
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館)

東京都写真美術館ニュース「アイズ19」99号 □発行日:2019年6月20日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課普及係 □印刷・製本:株式会社公社社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2019 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

文化でつながる。未来につながる。

TokyoTokyo  
FESTIVAL